

平成21年度 第2回企画ロビー展

## 「増上寺と徳川家霊廟の近代」

### 展示のご案内

- ◆ 展示期間：平成21年10月26日（月）～12月25日（金）  
土日、祝日および11月18日（水）・12月16日（水）は休館
  - ◆ 開館時間：午前9時～午後5時
  - ◆ 場所：東京都公文書館 1階ロビー 展示コーナー
- ★ 東京文化財ウィーク 2009（東京都教育委員会主催）参加企画
- ★ 港区立港郷土資料館特別展「増上寺徳川家霊廟」連繫企画

#### I 江戸の名刹 増上寺

浄土宗の大本山、三縁山広度院増上寺はすでに中世において念仏布教の拠点であると同時に、学問所としての基礎を固め、中世江戸を代表する寺院でした。

しかし近世寺院としての発展の画期となったのは天正18年（1590）、徳川家康が江戸城入りの際、時の住持・存応と師檀関係を取り結んだことにあります。その8年後となる慶長3年（1598）、江戸城の壕や市街の整備に伴う移動の一環として、増上寺は現在の芝の地に移転、以後山門・本堂・経蔵・方丈をはじめとする伽藍造営が進められていきました。

増上寺は、①将軍家菩提所、②浄土宗の僧侶養成機関のセンター、③宗派内への命令伝達の中枢機能を果たす「総録所」という3つの役割を併せ持つ存在であり、広大な寺域の中にそれらの機能を果たす施設が充実していました。

#### 【展示資料】

- ・東都歳時記 春・上 (C I・211) 括弧内は資料請求番号
- ・三縁山志 巻一 (C R・71)
- ・江戸名所図会 巻三 (C I・161)
- ・増上寺記録 (C R・94)

#### II 明治維新と増上寺

##### — 蚕食される境内 —

将軍家菩提所として、霊廟に参拝する諸大家の宿坊機能を果たし、また浄土宗の僧侶養成機関のセンターとして多くの学僧に生活の場を提供していた増上寺。ここには、大量の人員を受け入れる施設が整っていました。このため新政府のもと発足した機関の多くが

増上寺の子院や学寮の利用を図りました。

なかでも多くの兵員の屯所を必要とする軍関係の機関は、学寮の買い取りを進めつつ増上寺一円の引き渡しを求めていきますが、東京府はこれと係争し寺域全体の移管は防がれました。しかし、海軍省や開拓使関係の施設が増上寺の寺域を蚕食していき、複雑な土地利用の様相を示すことになりました。



明治6年（増上寺土地利用区分図）  
（608・A5・12）

【展示資料】

- ・庚午 記事類纂 社寺 (634・A5・17)
- ・明治四年 太政官日誌 一 (635・A5・12)
- ・明治九年ヨリ同十年六月二至ル 芝公園書類 (608・A5・12)
- ・辛未壬申 記事類纂 社寺 (634・A5・18)

### Ⅲ 太政官公園の制定

#### — 芝公園と増上寺 —

明治6年（1873）1月、公園制定の太政官布告が発せられました。都市における「群集遊観」の場所を永く「万人偕楽」の場として公園に定めようとするこの政策のもと、東京府は浅草寺・寛永寺・増上寺・富岡八幡社・飛鳥山を候補地に選びました。これが認められ、のちにそれぞれ浅草公園・上野公園・芝公園・深川公園・飛鳥山公園となります。東京府は明治9年以降これらの公園の経営を本格化していきました。

芝公園は江戸時代以来の自然景観と、増上寺の伽藍や徳川家霊廟といった第一級の文化的・宗教的施設を基礎としながら、会員制サロンである紅葉館や、百貨店の前身ともいえる勸工場等の新しい要素も加えていき、東京名所の一つになっていきました。

【展示資料】

- ・法令類纂 卷四十八 (632・B2・24)
- ・明治十年 浄土宗明細簿 (633・D4・1)
- ・東京府誌 卷第十八 (C1・388)
- ・芝公園地現今調整之図・天保年間調整之図 (『臨時増刊・風俗画報』145号)

#### IV 徳川家霊廟の近代

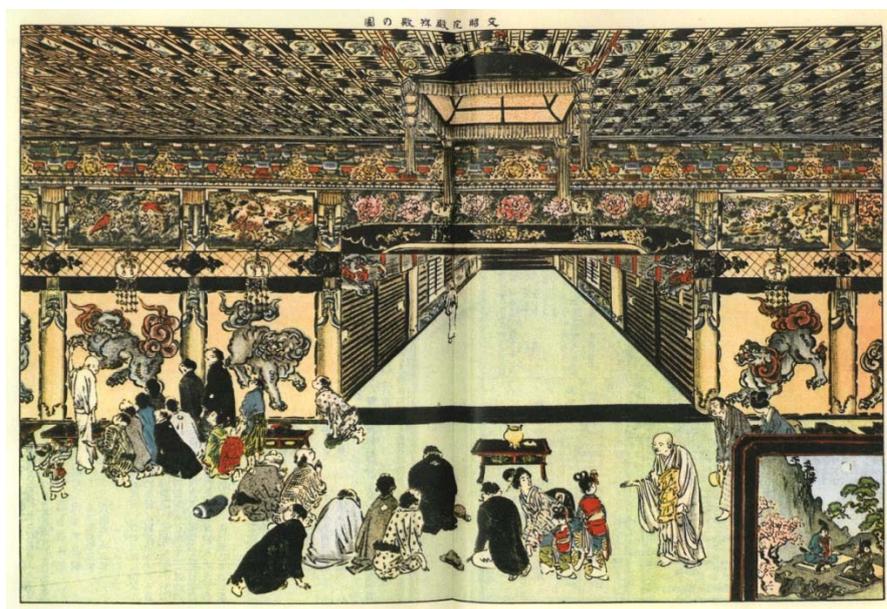
徳川将軍家の菩提寺は上野寛永寺と芝増上寺で、このうち増上寺には2代秀忠・6代家宣・7代家継の霊廟が設けられました。こののち将軍吉宗の遺命により新たな霊廟は作られず、既存のものに合祀されたため、9代家重は家継の霊廟に、12代家慶と14代家茂は家宣の霊廟に祀られています。つまり増上寺には3つの霊廟に6代の将軍墓が設けられていたこととなります。

これらの霊廟は、墓塔を安置する宝塔と社殿＝霊屋を中心に、そこに至る複数の門等から構成されており、それぞれが一流の大工・鍛冶・画工・塗師・蒔絵師・彫刻師によって制作され、公儀の権威を象徴する建造物でした。日光東照宮同様の文化財が東京の中心部・芝の地にも存在していたこととなります。

昭和5年に国宝にも指定された増上寺の徳川家霊廟は、昭和20年5月の大空襲で灰燼に帰しました。このコーナーでは、失われた霊廟の明治以降の姿を追っていきます。

#### 【展示資料】

- ・ 辛未壬申 記事類纂 貫属 (634・A5・20)
- ・ 明治元年 往復書翰留 (605・A3・15)
- ・ 明治12年 理事彙輯 (610・D2・13)
- ・ 東京府史蹟保存物調査報告書 第十一冊



文昭院殿拜殿の図  
『臨時増刊・風俗画報』149号

東京都公文書館

史料編さん係

平成21年10月作成